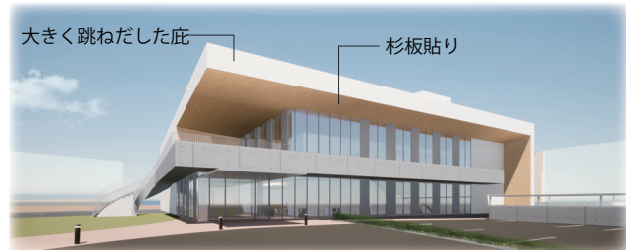


# 1 にぎわいの拠点としての外観デザイン

- 周辺施設のシンボルとなる外観を形成  
広場と道路に対して大きく跳ねだした庇は、スポーツ施設の力強さと地域に開かれた姿をつくり出すシンボリックな外観を創造します。
- 家具・木工の町としての歴史を具現化  
温水プールとしての清潔感を出すオフホワイトの金属板の外壁と、軒裏等をアクセントで杉板貼りすることで家具・木工の町府中としての象徴的な外観を生み出します。



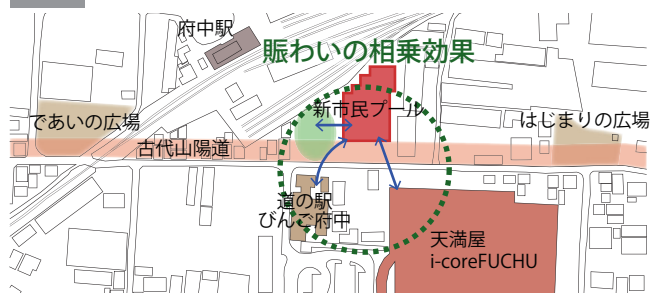
# 新たな、街のにぎわい交流拠点となる市民プール



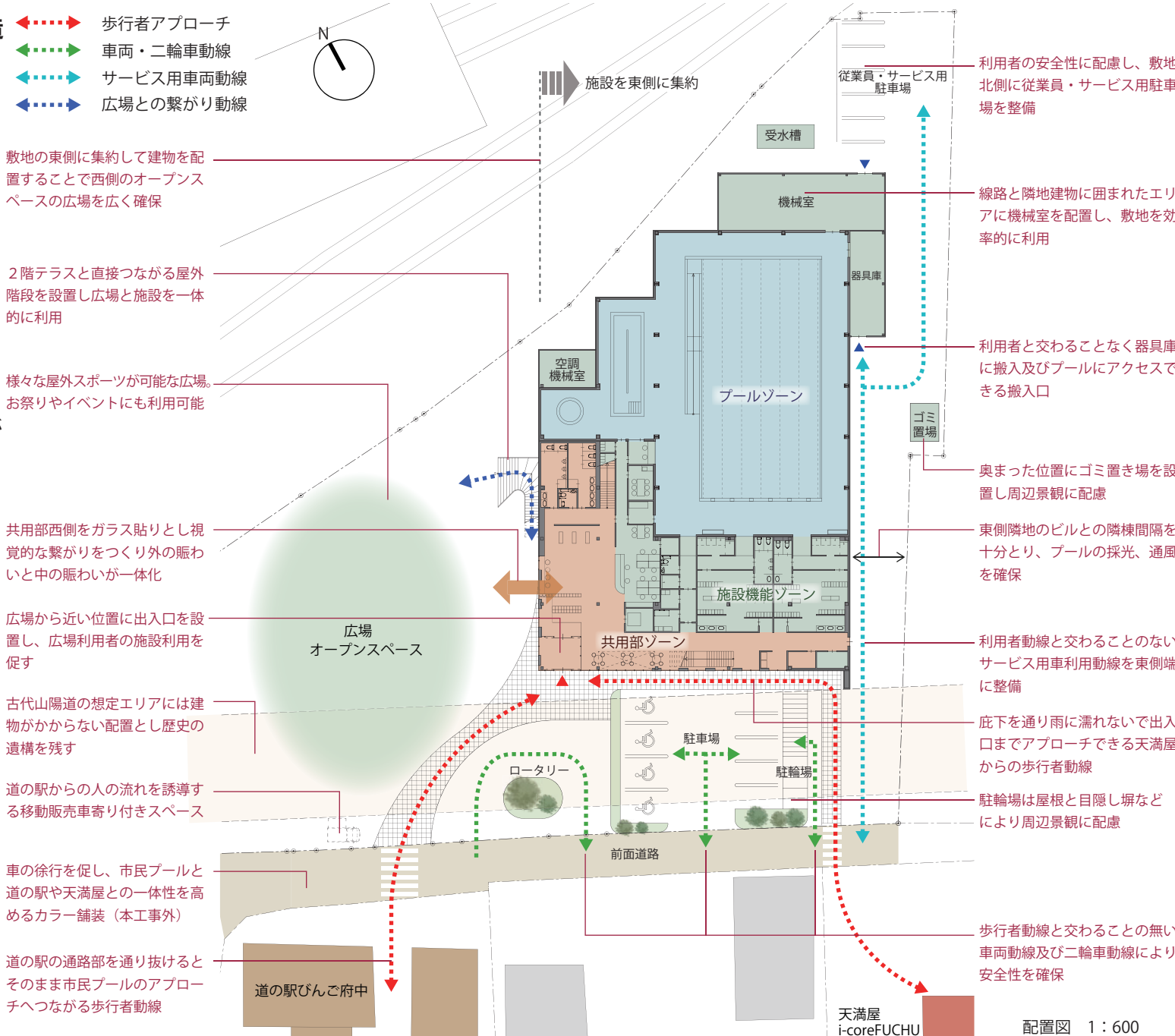
にぎわいと交流を生み出す新しい市民プールを創造するテーマ・・・『結ぶ』

- 賑わいを『結ぶ』  
道の駅びんご府中・i-coreFUCHU・広場の賑わい拠点を結び付け賑わいの相乗効果を創出
- スポーツ・健康を『結ぶ』  
プール・スタジオ・ジムに加えて広場での屋外スポーツを結び各種スポーツの強化からフレイル予防や健康づくりを目的としたスポーツサイエンスセンターの実現
- 幅広い世代を『結ぶ』  
様々な世代を受け入れる施設整備により生まれる世代間交流から新たなコミュニティの形成
- 歴史を『結ぶ』  
府中市の歴史・産業を身近に感じ取れるこの地だからこそできる市民の場を構築

# 2 賑わいと歴史を『結ぶ』歩行空間の創造



- 賑わい施設との相乗効果  
道の駅⇄広場⇄市民プール⇄i-coreFUCHUの賑わいの動線をつくり、回遊性を高めることで相乗効果による周辺地域の活性化を生み出します。
- 限られた敷地を最大限活かす  
府中市ランドデザインを踏まえた上で賑わい施設が持つポテンシャルを最大限活かせる、市民プール及び広場のゾーニング計画を行います。
- 広場と一体利用を可能とする屋外階段  
2階屋外テラスへとつながる屋外階段をつくることで広場と施設が一体的に利用できる計画とし、屋外活動の観覧スペースや庇下での飲食スペースとして利用するなど幅広く活用できる施設を構築します。また災害時には最短距離で安全な広場へ避難できます。
- 賑わいに向けて開く  
広場の利用者等が利用できるスペースを共用部に設け、外の賑わいを呼び込む一方、ガラス張りすることで中の賑わいを外部に伝え、敷地全体が一体的に賑わう施設を創り出します。
- 歴史を伝える  
古代山陽道と想定されるエリアには建物がかからない配置計画とし、舗装色に変化を付けるなどにより、府中市の歴史を現代に伝える整備を行います。
- 景観と安全性に配慮した道の舗装  
車の徐行を促すと同時に施設間の一体性を向上させるため、敷地南側の賑わい施設と接する道路舗装を着色することをご提案します。



# 3 にぎわいと健康づくりにつながる広場

- 市民の憩いの場を広く確保  
市民プールは敷地の東側に集約して配置することで憩いのスペースとなる広場を広く残します。ストリートバスケ、ゲートボールやグラウンドゴルフができるスペースを確保し敷地全体で健康づくりができる施設を構築します。
- 道の駅の流れを導く  
道路に面した広場の一部には移動販売車の寄り付きスペースを確保し、道の駅の来客の人の流れを広場内に引き込み、より一体的な賑わいの連動を計画します。



# 4 利便性・安全性に優れた外部計画

- 歩車道を完全分離  
子供、高齢者、身体の不自由のある方など様々な人の利用を想定し、敷地内においては歩行者動線と車両動線は交わることのない安全なアプローチ動線を計画します。
- 利便性の高い駐車場計画  
利用者がアクセスしてくる手段である車、自転車、二輪車の駐車場はすべて入り口から近い建物正面につくり施設の利便性を高めます。また駐輪場は目隠しで囲うなど、周辺景観にも配慮します。
- 安心安全な歩行者動線  
アプローチ動線は段差を無くし、インターロッキング舗装とすることで雨の日でも転倒の恐れのない利用者にとって安心安全な歩行者動線を計画します。
- 機能性でファサードを構築  
ロータリー部には送迎車から雨に濡れずに施設へ入ることができる車寄せ庇を整備し、天満屋からのアプローチには施設際に入り口までの庇を整備し機能も兼ねたファサードデザインとします。



## 5 様々なものを『結ぶ』内部計画

### ■様々な人が利用できる開かれたホール

広場に向けては外の賑わいを感じながらつづける健康づくりスペースを設け、高齢者の積極的な利用を促します。

ホール正面に設けた掲示板前にはベンチを設けた憩いのラウンジ、南側の賑わいに向けてはコミュニティスペースを設け、施設利用者の交流や広場利用者の休憩に利用できるなど様々な人に開かれた市民プールを実現します。

### ■活動をつなぐ

テラスからスタジオの活動を見学、ジムから水泳の練習風景を見る等、視覚的な繋がりをつくることでモチベーションを高めるとともに各スポーツ間での交流が生まれる仕組みを創り出します。



### ■フレキシブル空間としてのテラス

2階軒下空間に設けたテラスでは広場でのスポーツの観覧やジム・スタジオで運動した人のクールダウン等、外の活動と中の活動が混ざり合う空間とし、新たなコミュニティの形成を促すフレキシブル空間とします。

### ■プールを見渡す観覧席

観覧席はプールを見渡すことができる2階に配置することで、子供の成長を保護者が確認できることや水泳大会での臨場感のある観覧席とします。

## 6 多様な人を『結ぶ』インクルーシブな施設

### ■視認性と明快な動線計画

誰もが利用する受付、エレベーターは入口から入ってすぐ目につく位置に配置し分かりやすい計画とします。

プール観覧者の動線は施設利用者の動線とは分けスムーズに観覧席に向かえる明快な動線計画とします。

### ■大人数を受け入れるホール

1階ホールは小中学校の授業の際の溜りとしても機能する十分な広さを確保し、一般客との同時利用も可能な計画とします。

### ■疲労回復を高めるジャグジー（自由提案）

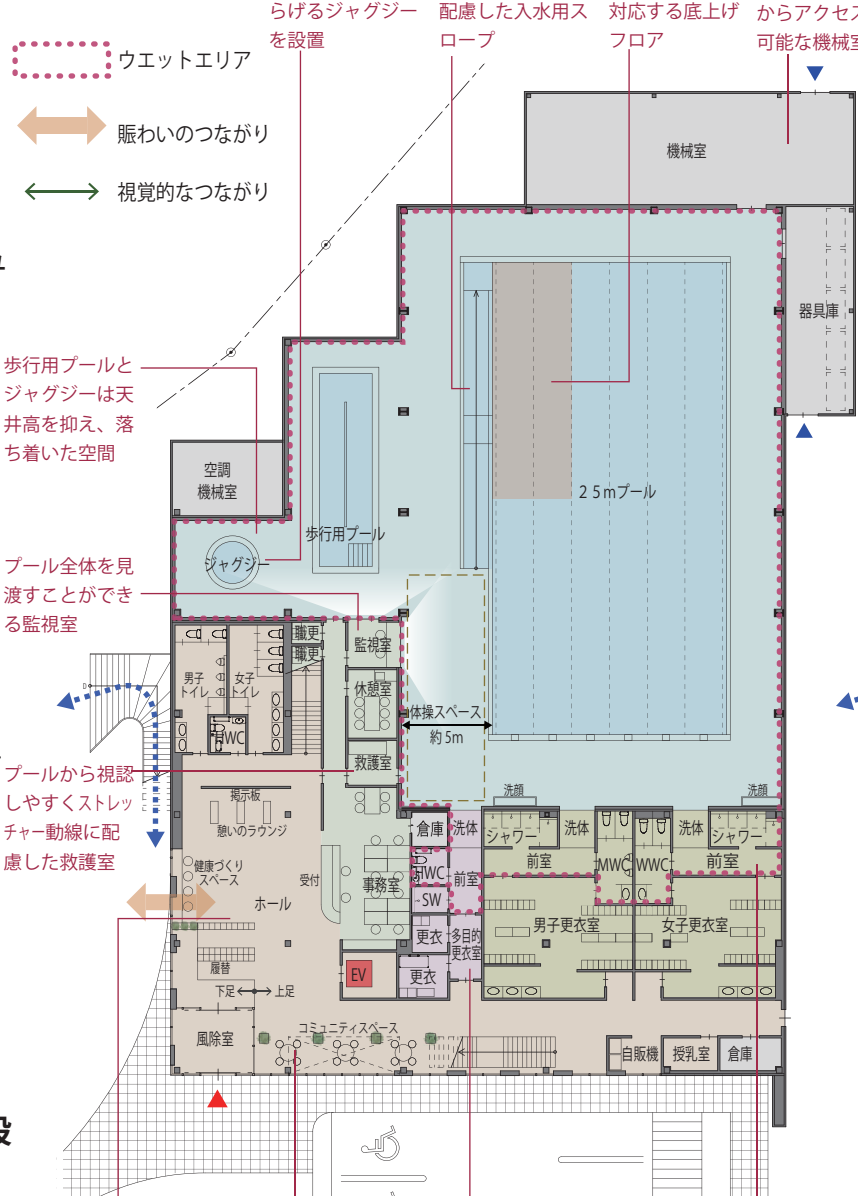
血行を促進し、運動後の筋肉疲労回復の効果のあるジャグジーを設置し、運動機能が低い方からアスリートまで様々な人を受け入れる施設を実現します。



### ■多様な社会に対応した多目的更衣室

広さの異なる更衣スペースを確保し、障害を持つ方と介助者がプライバシーを保ちながら更衣することやLGBTQの方が気兼ねなく利用できるインクルーシブな施設を実現します。

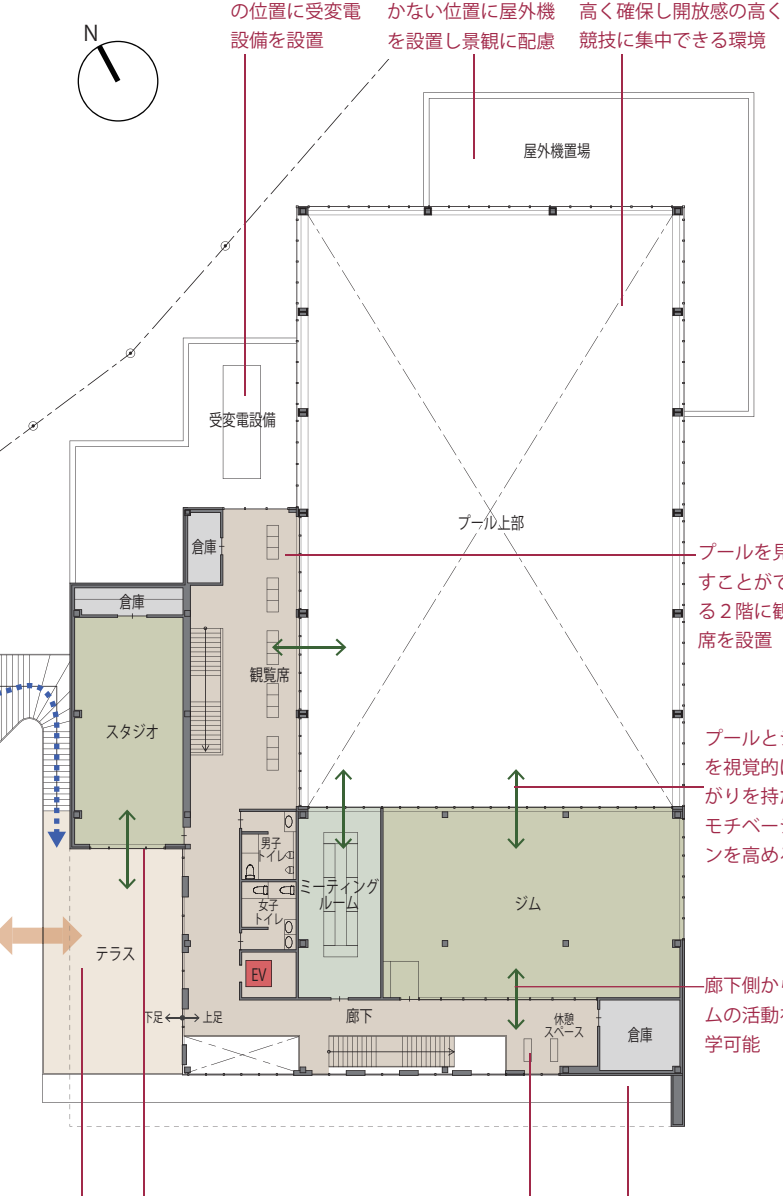
1階平面図 1:400



広場に開かれ、憩いのラウンジと健康づくりスペースを備えたホール  
 利用者の交流を生み出すコミュニティスペース  
 多様な人を受け入れる大きさの違う更衣室を備えた多目的更衣室  
 前室を長く確保しウエットエリアとドライエリアを明快にゾーニング  
 外の活動と中の活動が混ざり合うフレキシブルなテラス  
 スタジオでの活動をテラスから見学できる交流を生み出す  
 賑わい施設に向けて開かれた利用者の休憩スペース  
 天満屋側からのアプローチに設置する庇



2階平面図 1:400



## 7 安全・安心な施設づくり

### ■明快なウエットエリアとドライエリア

プールと更衣室の間の前室を長く確保することや床仕上げによりウエットエリアとドライエリアの明快なゾーニングを行います。

### ■広いプールサイド

監視室前のプールサイドは幅約5mを確保し、準備体操のスペースや学校授業の際の生徒の溜りに利用するなど安全性と利便性の高い計画とします。

### ■全てを見渡す監視室

監視室は各プール全てを見渡すことができかつ、高齢者の利用が多い歩行プール、ジャグジーの傍に配置することで緊急時にもすぐに駆け付けられる計画とします。

### ■低学年への対応

背が低い低学年の授業のため、2レーンの半分に底上げプールフロアを設置します。器具庫はプールフロアを全て収納できる十分な広さを確保します。



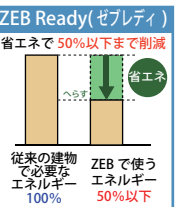
### ■地域を照らす

施設内の光や外部の木部を照らす照明は施設の周辺地域を温かく照らします。道行く人や街並みに安心安全と彩りで見守る夕景をつくり出します。

## 8 環境配慮型市民プールを創造

### ■ZEB Readyを実現（自由提案）

外皮の高断熱化と高効率な省エネルギー設備を備えZEB Readyを実現します。



地域を温かく照らす



### ■環境にやさしいオール電化施設

CO2排出量が少なく、災害時の復旧の早い蓄熱式ヒートポンプシステムを採用し、オール電化施設とします。

### ■ハザードマップを考慮した防災拠点

洪水ハザードマップにある浸水深5m以上の位置に受変電設備を設置し、災害の際でもいち早い復旧と機能維持ができる地域の防災拠点を構築します。

### ■防湿、防錆性能のある素材の選定

プール、更衣室等の塩素を含む水蒸気が流入するエリアは鉄部を現して使うことなく防湿、防錆性の高い素材でつくり維持管理費を抑え、長期にわたって美観を維持できる施設づくりを徹底します。

### ■省エネ設備機器の採用

人感センサー付LED照明、高効率型給湯器、節水型衛生機器、自動水栓機器等を採用し資源の有効利用と省エネ化を図ります。